



MIKADOの財布

美しく輝く凹凸の市松模様 大人のハイエンドを手に入れる

写真=山口卓也

当時の浮世絵でも確認できるから、よほどの二枚目ぶりがうかがえる。江戸時代中期の歌舞伎役者、佐野川市松が衣装に用い、それが流行したことから「市松模様」と呼ばれるようになった。それまでは石畳やあらねなどといったらしいが、さらに遡れば、おそらく呼称などない縄文・弥生時代の古墳から出土した埴輪も市松模様を着ている。そして、2020年東京オリンピック・パラリンピックのエンブレムも記憶に新しい。市松模様には日本の伝統的な美意識が確かに宿っている。

MIKADOはすなわち「帝」、最高の技術を用いた高貴なものを示唆する。昨年より展開するこの「市松」、文字通り市松模様が印象的だが、さらに注視すると凹凸に気付く。1959年創業のイタリアの名門タンナー、リナルデイ社の革、それも2層仕上げで色ムラがあるアドバンレザーを使用

している。発色が明るい凸部分を職人が手作業で精密に、丹念に磨くことで2色の格子模様は完成する。気が遠くなる作業だ。ともすれば和様にかたよることもある素材だが、アドバンレザーならではのアンティーク調、美しいステンドグラスを眺めているようでモダンかつ上品な凛としたトーンが絶好に洋を融合させている。凹凸があることで持ったときの手触りも不思議と心地よい。

もうひとつ、嬉しいことがある。この長札入と札入はともに通常よりもコンパクト。サイズの規格がないので型から作るというこだわりよう。このこだわりはデイリーユースで力を発揮する。特にパンツのポケットに入れたい向きにはありがたい。レザーは生き物、とよくいわれるように、さらなる愉しみが経年変化によって生まれる味わいの深み。ゆつくりと、自分だけの財布に育ってゆく。

モダンなたたずまいとともに 丈夫さと使いやすさを実感

下/ラウンド長札入(ワイン)。使用すると薄さを実感できる。38,000円。上/コンパクト札入(コン)。35,000円。ともにワイン、コン、グリーンの3色展開。
*税別。

商品に関するお問い合わせ

株式会社 守屋 03-3866-0001(10:00~17:30 土・日・祝日休み)
www.moriya-japan.com